

45周年記念特別号



医療法人 さわらび会

s a w a r a b i
さわらび

みんなの力でみんなの幸せを

8

August
2007
vol.412



開

業してから四十五年。

これもひとえに、口頭ご利用いただく皆様方と、職員の皆様のおかげでして、心から御禮申し上げます。

この四十五年の間に、私が病気で休んだのは、たった一日だけでした。

深夜早朝の往診もお断りもせず、四十五年間働き続けることができましたのは、両親とご先祖様から頑健な体をいただいたことと、職員の皆様の絶大な御支援のたまものでして、深甚なる感謝をささげたいと思っております。

さて、昨今の医療費削減政策は、ますます厳しさを増し、日本中の病院は、まさに綱渡りの日々を続けておりますが、我々もしっかりと力をあわせて、この難局を切り抜け、みんなの健康と幸せを守り続けてゆきたいと願っています。

医療法人さわらび会 理事長

山本 孝之



四十五周年史

さわらび会 理事長

山本 孝之

(1) 開業 ― 一九六二年

父親が定年になるのを機に、郷里へ帰って開業し、両親と一緒に暮らすと考えた私は、病院勤めのかたわら度々帰豊して、土地を探しました。

それまで医局の命ずるままに、あちこち病院回りをしていた私には、土地をやるだけの資金は全くありませんでしたから、大変なことでした。土地を貸して下さる人もなく、お金を貸してくれる銀行もありませんでした。

私が途方に暮れている姿を見た母が、「東田農協の組合長をしてもらっしやる朝河さんに相談してみたら。」とすすめてくれました。

朝河さんにお逢いして事情を説明したところ、すぐに「私の土地を必

要なだけ提供しましょう。」とおっしゃって下さいました。

私が「お金はありませんけど。」と申し上げますと、「将来払えるようになった時に支払ってくればよいから。」とおっしゃって、東雲町六二番地の土地七十坪の名義を、すぐその場で私名義に変える手続きをして下さいました。

初対面の男に、代金も受けとらないうちに、ほんと土地を提供して下さい人が、この世にいらっしゃらないで、全く夢のようでした。

今ある病院も福祉村もすべては、この朝河さんのおかげなのです。

両親は一九四五年六月の空襲で焼け出されてから、暫くあちこちを転々とした後に、吾妻町にできた市営住宅で暮らしていました。

母は婦人会の役員など地元での仕事をいろいろしていた関係から、東田農協の朝河さんとおつきあいが始まったのだらうと思いますが、この母の息子というだけで、土地をただで提供して下さい朝河さんには、

いくら感謝しても感謝しきれない気持ちで一杯です。

建物は従兄の青山建設に頼み、建設費は、先ず、朝河さんからいただいた土地を担保に医療金融公庫から借りた分だけを支払い、その後は、診療報酬が入る度に支払ってゆきました。

でも、土地代金の支払いは、随分遅れましたけれども、朝河さんからは一度も催促されませんでした。



●完成後、間もなくの山本病院

(2) 脳卒中全盛期

(一九六〇年代)

一九六〇年代の日本は、脳卒中の全盛期でした。

当時は脳出血が多かったせいもあって、卒中になったら、倒れたその場で絶対安静と言うのが、その頃の治療方針でした。だから、運よく命をとりとめても、寝たきりになれる人が大部分でした。

私は、「幸せとは、自立して自由に生き、今日分のできることでまわりの人の役に立つ働きのできる時に感じるものだ。」と考えていますので、たとえ、脳卒中になっても、なるべく早くリハビリを行って、日常生活の自立度を高めて、寝たきりにさせないことが必要だと考えましたから、脳卒中のリハビリを私の第一目標としました。

我が国で、リハビリテーション医学学会ができたのは一九六三年でして、私が開業した翌年でした。早速、リハビリ医学学会へ人会して、学会に出

席するとともに、東京清瀬のリハビリ大学にも度々見学に行きました。

先ず、病院を増して、訓練室には、オーバーヘッドフレイム、平行歩行棒、階段昇降器、マットなどを置き、浴室にはハーバードタンクと水中歩行訓練のできる温水プールを設け、担当職員教育を行ってから、脳卒中のリハビリを始めました。

それから数ヶ月後、突然、県医師会の役員と県の職員が山本病院へやってきて、「リハビリの保険請求が出てくるが、架空請求ではないかと疑って査察にきました。」と言われ、全くびくりました。

でも、その当時、豊橋では市民病院も国立病院も、リハビリは全くやってなかった時代でしたから、疑われるのも当然でした。

しかし、リハビリ設備もすべて整い、担当職員も訓練されており、患者さんへのリハビリがきちんと行われている現場を見られて、大変びくくりされ、「これなら、リハビリの

保険請求をされても結構です。」と言って帰られました。

その頃、町では、「中気になって山本病院にかかれば、杖をついて歩けるようになるだけな。」という噂がひろがり、患者数は、挙に増えました。

(3) 介護職の創設

(一九七一年)

入院患者さんの大部分が脳卒中と言いうこともあり、オムツの交換、体位変換、そして、食事の介助など、必ずしも、看護婦さんでなくてもできる仕事が多かったので、このような患者さんの身の回りのお世話をしていたために、介護職という職制を新たに作り、その募集をいたしましたら、二つの大きな反対に出合ってしまった。

ひとつは、山本病院の看護婦さん達が、「私達のやるべき仕事を、資格のない小母さん達にやらせることはできない。」と猛烈に反対し、ストライキまでやられてしまいました。

「かゆい所に手の届くような看護をするためには、お世話する人の手の多い方がよいし、介護職の人々への指導は、看護婦さん達がしっかりやれば、患者さんやご家族にも喜ばれるから。」と言って、なんとか反対を押しきってゆきました。

介護職と言ってもどんな仕事をする職種なのか、山本病院で働いている看護婦さん達でさえも分からなかった時代でしたから、職安に求人をお願いしても、人も紹介されませんでした。

そこで、新聞に「当院には多くのお年寄りが入院していらっしやいます。病めるお年寄りの身の回りのお世話をいただく女性を求めて居ります。」と求人広告を出しましたら、応募者が、人も現れない中に、保健所へ呼び出されて、「老年科は、医療法で標榜することが許されていないにもかかわらず、あなたも、老人病専門病院であるかのような広告を新聞に出すなんて全くけしからん。すぐに県知事あてに始末書を出して

下さい。」と怒られました。

そこで私は、「新聞に広告を出したのは、老年科を標榜するためではなく、お年寄りの身の回りのお世話をする介護職の募集をするためであることと、次に、医療法に関しては、国立の東大や阪大では、すでに老年科をはっきり標榜して老人の診療を行っているし、府県立ではあるけれど、大阪では成人病センター、神奈川では厚木リハビリセンターなどが医療活動をやっており、いずれも医療法では認められていない名称で、医療を行っている事実があるにもかかわらず、個人病院では求人活動すらも認められないなんて、法の平等に反する。」と猛烈に抗議しましたが、保健所は頑として認めず、結局、桑原知事あての始末書を書かされました。

その後、少しずつ介護の人が増えて、入院患者さんのお世話がしっかりできるようになってゆきました。あの頃、他の病院では、付添いをつけないと入院させない時代でした

から、ご家族からは、「山本病院は、付添いがなくても入院できてありがたい」と、とても感謝されました。現在は、老人病院でも、老人ホームでも、どこでも介護職の人が働いていらっしゃると思います。まさに隔世の感がいたします。

(4) 老人学校と老人大学の開講

(一九七二年)

殆どの入院患者さんは、リハビリを受ける時間以外は、何もしない、隣の人と話もしないで、ただぼーっと時間を過していらっしゃるようでした。

たった一回きりのやり直しのきかない人生なのに、そして、過ぎ去ったら永久に取り戻すことのできない大切な時間なのに、無駄に捨てて顧みない姿を、私はとても見ていただけませんでした。

一日を大切に、そして、楽しく生きがいのある日々を過ごしていただきたいと考えた私は、先ず、なるべく多くの患者さんが楽しめる院内放送

をしようと考えました。

年をとるとともに楽しめるものはみんな違ってきますから、ひとりひとりの患者さんに、楽しみは何ですかとか、今何をやりたいですかと、尋ねてまわりました。

そうしましたら全く意外なことに、書道をした、手芸をした、本を読みたい、散歩したいと、様々な希望が出されましたので、早速、毎日午後二時から老人学校と称して、患者さん達に会議室へお集まりいただき、私や職員達が古今東西の名曲鑑賞、小説や詩の朗読、英会話などの授業を始めました。この外、宗教講話や詩吟は、ボランティアの先生にお願いして、それぞれ好きな授業を受けていただきました。

会議室の授業に出席できない患者さんのために、その模様を院内放送で流しました。

それだけでなく、絵画、書道、手芸、パッチワークなどを希望されるみなさんのためには、ボランティアの先生方にベットのサイドを回りなが

らのご指導をお願いしました。

数カ月に一回位、患者さんの作品展示会を行って、みなさんに見ていただきました。

お天気の好い日には、近くの公園へそろって散歩に行き、春や秋には遠足と称して、向山公園や豊橋公園へ、お弁当を持って出かけました。

やがて、体が不自由になって、何度死のうと思ったか分からなくなるとこぼしていらっしゃる患者さんが、アイデアたっぷりの作品をどんな作られるようになって、展示会の主役になりましたが、この方だけでなく、老人学校を始めてから、多くの患者さんが日覚ましい病状の回復を示されるようになってきました。更に、老人学校ではあきらめない、もっと、しっかりとした勉強をしたいと訴える患者さんまでが出てきましたので、愛知大学の教授を初めとして、市内外の学識経験者に、大学レベルの講義をしていただくための、老人大学を毎週木曜日の午後、開講することにしました。

折角の講義なので、院内の患者さんだけでなく、向学心に燃える町のお年寄り達にも参加していただくようと考えて、大学を広く開放しましたら、噂が瞬く間に広がって、市内の各地からだけでなく、浜松や新城からも、講義を聞きにいらっしやるほどになりました。

最初の講義は、愛知大学学長の久曾神教授に、「万葉集と三河」についてしていただきました。



●老人大学の野外講義

(5) 福祉基金運営委員会

(一九七五年)

一九七〇年代の山本病院は、土曜日は半ドンで、勤務は午後二時まででしたから、その後、みんなでそろってソフトボールをやったり、山へ遊びに行ったりして楽しく過すとともに、ボランティア活動も非常に活発にやっていました。

例えば、土曜日の午後、二、三人ずつ一チームになって、ひとり暮らし老人のお見舞いに行ったり、障害者のワークキャンプや旅行に参加したり、市立老人ホームへは毎月一回お見舞いに行き、夏には、ひとり暮らし老人宅の大掃除にも出かけました。

そうこうしているうちに、職員からお年寄りの自宅を訪問するにも、市立老人ホームへのお見舞いにあがる時にも、はたまた、障害者のワークキャンプにも、手ぶらで行くよりは、おみやげを持って行ったほうがもっと喜ばれるのではという意見が

出され、更に、奉仕活動にも資金が必要だから、みんなが毎月の給料の百円以下の端数を寄付して、これにあてようという意見が、職員から出されました。

でも、自分の収入は、円だって減らされるのは嫌だと、強硬に反対する人も一部にいました、すぐには決まりませんでした。数ヵ月たつうちに、全員が百円以下の端数を寄付するのに賛成となりましたので、福祉基金運営委員会が、一九七五年四月一日に設立されました。

一九八〇年に、私達が最も尊敬するマザーテレサの生涯を描いた映画が、日本の女子パウロ会に届いたという情報が入りましたので、ぜひこの映画を豊橋の皆さんに見ていただきたいと考え、女子パウロ会に交渉をし、その了解が得られましたので、三月二十三日(日)に、福祉基金運営委員会の主催で、八町の豊橋福祉センター講堂で、マザーテレサの映画の上映と彼女の本の直売会を行いました。

映画を見て感動された人々が、ぜひマザーテレサに寄付をしたいとの申し出がありましたので、寄付金をとりまとめ、女子パウロ会を通して、インドのマザーテレサにお届けしました。

その後も、この基金は職員の手で活動に積極的に活用されましたし、神戸、トルコ、そして、新潟などの大震災の時や、社協の共同募金などにも、大きな貢献を続けております。



●街頭募金(歳末助け合い募金)を終えて(1985年)

(6) 退院は悲劇の始まり

(一九七五年)

戦後の経済復興とともに、長生きをされる人が急激に増えたためでしょうが、子供さんの看護法はみなさんよくご存じなのに、お年寄りが病気になるれた時のお世話の仕方は、殆どの方がご存じない状況でした。

そこで、入院中から毎月一回、患者家族会を行って、最新の老年医学と老人の介護法などについてお話をしてまいりましたが、それにもかかわらず、病状が良くなれば、日常生活がほぼ自立された段階で、退院をしていたのですが、退院後間もなく病状が悪化して再入院されたり、或いは、自宅で亡くなられたと言う悲しいお知らせを受けるような、苦い経験を度々味わって居りました。当時、退院はまさに悲劇の始まりだったのです。

そこへ、私にとって大変ショックとなる悲しい悲しい事件が起こりました。

病状は良くなされたのに、ひとり暮らしの上に身寄りもないために、退院がのびのびになっていた日さんに、福祉事務所の方が山本病院の近くのアパートを借りて下さり、そこから山本病院へリハビリに通うという事になって、希望に燃えて退院されたのに、程なく、彼がアパートの自室で、死後数週間も経ってから発見されるといふ、非常に痛ましい出来事が起こりました。

私達が死ぬ時には、愛する人の腕の中で、そして、家族や友人に囲まれて、あの世に旅立ってゆきたいのですが、彼は誰にも看取られることなく、ひとり淋しく亡くなられたのです。その切なく辛い悲しみを思うと、涙が溢れて止まりませんでした。

この事件は、一人暮らし老人を退院させることの難しさを充分に知りつくしていながら、的確な援助をしなかった私に、すべての責任があると厳しく反省しました。

そこで、私は在宅老人の健康を守

るために、今後最大限の努力をするとともに、ご自宅での生活が難しいご老人の健康と幸せを、私が責任を持ってお守りしてゆくことを、日さんのご霊前に固く誓いました。

そこで、特別養護老人ホームを私の手で作ることを決意したのです。

特養を建てるのに適した土地、自然環境が良くて緑も多く、而も、人里から離れていないという土地を探すために、豊橋じゅうを何回も走りまわり、やっと、牛川に理想的な土地を見つけましたので、早速購入しました。一九七五年四月のことでした。

(7) 社会福祉法人の認可

(一九七六年)

特別養護老人ホーム(特養)は、地方自治体か、社会福祉法人が設立するものでして、社会福祉法人の認可は、厚生省の管轄でした。

社会福祉法人の認可には、先ず、社会福祉事業を行うのに必要な土地と施設がなくてはならないのですが、

土地は買ったばかりの牛川の土地を寄付するからよいのですが、特養の建物を建てるのに約四億円が必要でしたが、私にはその金額はとても調達できませんでした。

社会福祉法人として認可していただければ、建設費の約半分は補助金としてもらえますから、なんとか認可をいただきたいと考え、厚生省へ度々足を運んでお願いしましたが、全く駄目でした。

一九七五年当時、開業医が特養を作るということが全くなかったためもありました。

そこで、小さい頃から顔見知りの上村代議士にお頼りする他はないと考えました。

ここで少し脱線します。

私が八町小学校へ入学した日のことなので、何十年も大昔のことなのに、なぜかその時の光景は今でもはっきりと覚えております。

入学式を終えて、母と二人で家路へ向っていた時でした。空は晴れわたって、あくまでも青く澄みわたり、

桜の花びらがヒラヒラと二人の肩に降りそそいでいる、木当に美しくそして暖かな春のひとときでした。

母が私に、「孝之は今日から小学生で、もう立派な一人前なんだから、これからは社会の皆様のお役に立つことをしなければいけないわね。前からずーっと考えていたんだけど、氏神様のお掃除をする人が誰もいないもんだから、荒れ放題になってるので、明日から二人で毎朝氏神様のお掃除をしましょう。」と言われました。

その翌日から、雨の日も、風の日も、はたまた、雪の日も、毎朝、母と氏神様のお掃除をいたしました。

妹二人も、小学生になると私達に加わって、一九四五年六月二十日の豊橋大空襲で氏神様が焼けてしまうまで、約十一年間、毎朝一日も休むことなく続けました。

あの頃は、朝起きると氏神様へお参りをされる人が多かったのですが、その中に、結婚され弁護士を開業されたばかりの上村先生もいらつ

しゃいました。若々しく美しい奥様とおそろいで、朝のお参りにいらっしやつてましたが、その度に私達に、「苦勞様。」とやさしくお声をかけて下さいました。

私が社会福祉法人の認可をとりたいたと考えた時には、上村先生はすでに立派な国会議員になられていましたので、お伺いしてお願いをしましたら、二つ返事でお引受け下さいました。

全く前例のないことですから、非常に難しかったはずなのに、上村先生の強力な政治力のおかげで、一九七六年に認可がいただけました。

私が認可の運動を始めてから、ほぼ一年が経っていました。

でも、認可されたのは上村先生のお陰でして、現在、社会福祉法人さむらび会がこの地域でみなさんの幸せを守る活動ができるのも、ひとえに、上村先生のご尽力の賜物です。このことを私達は永久に忘れてはいけないと思います。

そして、私事で大変恐縮ですが、上村先生に私を逢わせて下さった母の恩も忘れてはいけなさとひそかに私は思っています。

考えてみれば、病院が開業できたのも、社会福祉法人の認可がいただけたのも、すべて母のおかげと言えます。

でも、私はここで母の自慢をしたかった訳ではありません。

親の一挙手一投足のすべてが、子や孫の未来に大きな影響を及ぼすものであることを、職員の皆様に自覚していただきたいために、敢えて、ここに書かせていただきました。

(8) 認知症を生涯の課題に

(一九七〇年)

一九七〇年代から我が国でも、認知症の患者さんが徐々に増えてきて、認知症を抱えたご家族が、どうしたらよいのか分からなくて、大変に苦しんでいらつしやるのを、見聞するようになりましたので、脳卒中の次は、認知症を私の生涯の課題にしよ

うと決意しました。

しかし、当時の医学では、「認知症は、どんどん進行して悪くなってゆくもので良くなることはないと言」うのが、認知症診断の二項目となっており、若し、病状が改善したら、それは認知症ではないんだ。」とされてきました。

だから、世界中の医者が、「認知症には治療法はないから、診断するまでが医者の仕事で、後は、自宅かナーシングホームにまかせればよい。」と考えてました。

それなのに、認知症の患者さんやそれを抱えたご家族の苦しみを見るに忍びず、なんとかして認知症を少しでもよくする方法を見つけないと決意したわけですから、まさに、ドンキホーテのようなものでした。

ですから、こうすれば認知症は良くなるよと発表した時には、医者仲間のみんなから罵倒され、認知症の定義も知らないインチキ医者だと口汚くののしられました。

(9) 認知症介護の三原則

(一九七三年)

私が認知症を生涯の課題にしようと思いついた時には、すでに山本病院にも認知症の患者さんがいらつしやいましたので、先ず、どのような患者さんが良くなれば、どのような症例がどんな悪くなってゆかれるのかを、観察することから始めました。

その結果、毎日が楽しくて幸せにお過しの患者さんは良くなれば、日々悲しくてゆううつに沈んでいらつしやる症例は悪くなれることが分かりました。

そこで、認知症の患者さんを幸せにするための「認知症介護の三原則」を作りました。

いつも暖かな愛情と
優しいいたわりを持って

忘れてしまったなんとも同じことを尋ねるのに、「なんど同じことを聞くんだ。」と怒鳴りついたり、おもしろしをして着物や布団を汚され

る度に「赤ん坊じゃあないんだから
しつかりしろ。」と、お尻をひっぱ
たいたりしますと、認知症はみるみ
る悪くなつてゆきます。

もの忘れも、おもしろも、すべて
認知症の症状でして、カゼをひいた
時の鼻水や咳と同じで、自分ではや
められないことを先ず理解して、年
をとつてから大変に辛い病気にかか
られたお年寄りに、暖かい愛情と優
しいいたわりを持つて接することが
必要なのです。

**決して叱らず制止せず
いつも自由に**

不潔なことや危険なことをしよう
となさっている患者さんを見かけた
時に、そんなことをするなと叱った
り、ダメと制止しますと、患者さん
は怒つたり、悲しんだりされて、認
知症は必ず増悪します。

それよりも、その人がもっと喜ぶ
ことをするようにお勧めすることで、
不潔なことや危険なことをなさらな
いよう、うまくかじをとることが重

要なのです。

例えば、便こねなさっているのを
見つけても、「ダメ、そんなことす
るな。」と叱るのではなく、「美味し
いもなかがあるから召し上つて下さ
い。」とおすすしめし、台し上がる前
に手を洗つていただき、もなかを楽
しんでいらつしやる間に、汚物を片
づけるようにしましょう。

**今できることでまわりに役立つ
働きをしていただく**

自分は全くの役立たずだと感じる
ことほど、辛く悲しいことはありません。
たとえ寝たきりでも、ほけていて
も、自分がまわりの人に役立つ働き
ができると感じられることが大切な
んです。

だから、その患者さんが現在何が
できるかを探し出して、それをやっ
ていただくようにおすすしめし、やっ
ていらつしやる間に、絶えず褒め続
け、感謝の言葉をかけてあげますと、
病状は良くなります。

脳が働くエネルギーの原料はブドウ糖だけでして、そのブドウ糖に酸素が作用して、脳の働くエネルギーを作っていますが、脳にはブドウ糖も酸素も貯えはありませんから、絶えず補給し続けなければならぬのです。この補給を担当しているのが、頭への血のめぐりですから、頭の血のめぐりの良し悪しが、頭の働きを左右しています。

頭の血のめぐりは、幸せで楽しい時には良くて、ゆううつで悲しい時には悪くなります。

だから、認知症を良くするためには、楽しく幸せにお過ごしいただくようにして、頭の血のめぐりを良くすることが大切です。

(10) 痴呆療法士(一九七五年)

認知症患者の日常生活動作(排泄、摂食、衣類の着脱、入浴、整容など)の自立度を高めさせるとともに、大脳の働きを賦活させる働きかけを専門に行う痴呆療法士という新しい職制を設けました。

大学で心理学を専攻し、Hつ、楽器の演奏ができる者を、痴呆療法士として採用しました。

頭の血のめぐりを良くすることも大切ですが、脳は場所によって担当する働きが違うという特徴があり、特に、人間独自の精神活動、すなわち、言葉話す、手を使う、立つて歩くという行動は、脳の広い領域が担当しておりますから、大脳を効率よく賦活するためには、人間独自の精神活動を楽しく行うことが重要なのです。

1. 想い出話を

ご本人が一番得意になつてお話しされる想い出を、ご家族やまわりの親しい人々から取材し、それを思い出されるように度々話しかけをします。

例えば、もと新聞記者だった人には、どうやって特ダネをとられたのかとか、昔、社長さんだった人には、どうして会社を發展させたのかと話しかけるのです。

言うまでもなく、立ったまま見下すようにして話しかけるのではなく、隣りに腰かけて、日と日を合わせ、スキンシップをしながら想い出を聞き、相手のお話に調子を合わせながら、ご立派ですなとか、すばらしいですなと、大いに褒めてあげることが重要です。

2.ご本人の好きな手作業を

書道、裁縫、キャッチボール、農作業、園芸など、ご本人が一番喜ばれる手作業をやっていたら、いっもお上手ですなと褒め続けます。

私達がこれを始めた頃、今から二十年前には、男性はお習字、女性はお裁縫が、一番喜ばれたものです。これは、この方々が小学校時代に最もよく学ばれたことだったからだと思います。

しかし最近では、どちらもあまり好まれなくなり、むしろ、キャッチボールや園芸を喜ばれる患者さんが多くなってきました。

認知症の症状も、その内容は時代

とともに変わってくるものです。昔多かった滯集癖や異食は、最近はめっきり少なくなり、帰宅要求もすっかり減ってきました。

3.お散歩

寝ていたり座っているよりも、立って歩く方が、はるかに頭の血めぐりは良くなります。だから少なくとも、一回二十分位のお散歩はぜひなさって下さい。

但し、歩き過ぎ、徘徊のし過ぎは、認知症を増悪させ、寿命を縮めます。なぜならば、歩くのに必要なエネルギーは酸素を使って作られますから、長い時間歩き続けると、大量の酸素が使われるために、体の中で非常に多くの活性酸素が発生して、まわりの細胞を傷害してしまい、認知症、ガン、老化などを促進します。これを酸化ストレスといいます。

昔、或る認知症専門病院が、患者さんを自由に徘徊させるためには、病院の廊下を回廊式にすべきだと主張し、厚生省もこれに賛成して、回

廊式でないこと、認知症専門病院と認めないこととしました。

然し、認知症の患者さんは、歩き疲れたから休もうとする判断ができませんから、回廊式廊下をひたすら歩き続け、そのために、酸化ストレスから病状を、段と悪化させ、死期を早めてしまいます。

これに対して、私は、一回二十分位の散歩なら、体の中でできる活性酸素の量よりも、活性酸素を消費するに働く抗酸化酵素の産生量の方が多いため、徘徊は一回二十分位にしないで、はならないから、病院の廊下は回廊式とはせずに、廊下の突き当たりや真中あたりには、患者さんが座って休める椅子を置くべきだと主張しました。

最近やっと、厚生省も回廊式の弊害を認めるようになりました。

(11) ぼけ二一〇番

(一九八〇年)

それまで一家のあるじとして、或いは、主婦として、家族みんなを

支えてこられた人が、認知症になられただけでも、途惑うことばかりなのに、突然、激しく怒りだされたり、真夜中に裸で外へ飛び出そうとされるので、お世話をされるご家族は、一瞬も日が離せず、また、どうしたらよいか途方に暮れるばかりでした。このままでは、家族共倒れ、家庭崩壊さえも起しかねない状況でした。

そこで、三六五日二十四時間いつでも、電話で、的確な対処法を、認知症専門家の山本病院の医師やケーヌワーカーがお教えするための、ぼけ一〇番を、一九八〇年六月に始めました。

「ぼけ一〇番」という名称は、あまり良くなかったけれども、「朝日」や「読売」で報道されたこともあって、多くのご家族から、様々なご相談を受けました。

患者さんのことを大切に思っていることが、電話口からひしひしと伝わってきて、胸が打たれる思いがしました。

日も早く、「認知症介護の三原則」が普及して、患者さんご家族も悩みから解放されて、ほけ一〇番が必要でなくなる日が、早く来るのをお願いながら、お電話を待っていました。

(12) 福祉村（一九八〇年）

特養のさわらび荘へ入られた時には、みなさん寝たきりなのですが、毎朝ハビリを受けて、日常生活の自立能力が高まってきますと、中には、すべての日常生活が自立可能となった人も出て来まして、「私は百姓をしたいから、近くの農地を借りておくれん。」と言いだされました。

自立できた人は、本来なら、特養を出るべきなのですが、前述の皆さんと同様で、この方もご家族のいらっしゃる人でしたので、退院の悲劇ともなりかねませんので、農地を借りてさしあげました。

年をとればとるほど環境の変化に適応する能力は低下してきますので、病状や日常生活能力の変化とともに、

施設を転々と変えられるのはよくないことですから、できれば所謂、老人天国のように、すべての高齢者の施設が同じ敷地の中にあるのが理想的なのです。

また、施設を利用されてる人々にとって、すべての面で職員の世話を受けて生かされ続けるのも決して幸せではありません。高齢者でも、障害者でも、今、自分のできること、まわりの人々の役に立つ働きができないと、幸せにはなれません。

そこで、自立を促進するハビリ病院、授産施設と福祉工場などを中心に、更に、今日分のできることで、まわりの人の役に立つ働きを見つけやすくするために、世代も違い、障害の質も異なる人々が利用するすべての福祉施設をまわりに配置する場を作らなければならないと考え、そのために必要な約五万坪ばかりの土地を探して、東は浜名湖周辺から、西は伊良湖まで、くまなく走り回りました。

その頃、たまたま豊橋に技科大が

できることが決まりましたが、その西隣りの野依の荒地十万亩が売りに出されていることを知りましたので、早速、野依の人々と話し合いを持ちました。

当時、知的障害者の施設ができるのと、その付近の土地の値段が下がるから大反対と、まわりの地主達が騒いでいる記事が、新聞紙上にデカデカと載っていた時でしたから、その土地を福祉村建設のために購入することに反対されるのではないかと、大変心配しましたが、野依の皆さんは福祉に大変ご理解があり、話はトントン拍子に進んで行きました。

そればかりか、福祉村の建設中も、その後の運営にも、野依の皆さんは非常に協力的でして、私達は野依の方へ足に向けては寝られないと言って、いつも感謝しております。

問題は、十万亩という広大な土地の購入費でした。特養さわらび荘を建てるのに、それまでにためた貯金のすべてを使い果していましたので、購入費のすべてを借金しなくてはな

りませんでした。

そんな莫大な借金をすれば、山本病院は倒産してしまうから、絶対反対という職員が多かったけれども、みんなの幸せと健康を守るためには、どうしても必要だと考えて、その反対を押しきって、全額借金で土地を購入しました。

更に、病院や福祉施設だけのあつ場所では、そこで毎日暮らされる人々が、違和感を持たれるかも知れないと考え、なるべく普通の町のようにするために、喫茶やレストラン、日用品の売店、郵便局、お寺と公園なども作り、名前も福祉村と名づけました。

更に、この福祉村を緑豊かな、そして、四季いつでも美しい花の見られる町にするために、日々環境の整備を心がけてきました。

こうして出来上がった福祉村は、高齢者や障害者のための専門の病院と福祉施設のすべてがそろっていますから、日頃ご利用いただく皆様達だけでなく、地域のみなさんの健康

と幸せを守る総合安全保障基地としての役割も果せませんから、いつもすべてを開放し、地域の皆様に必要な医療と福祉のサービスを提供してゆきたいと考えて居ります。

ご自宅にいらっしゃる高齢者や障害者の人々が、緊急に必要となられたサービスを、いつでも、どなたでも、お気軽にご利用いただくための「福祉コンビニ」を、現在までに二カ所（東雲町69-5666、弥生町38-9090）設置しましたが、今後も、これをもっと増やして、いつでも皆様のご要望に応えられる体制をとってゆきたいと考えております。

また、阪神淡路大震災や中越地震などにボランティアした経験から、認知症や障害者の皆さんが、町の公民館や学校の体育館で、一般市民の人々と一緒に避難生活をされるのは、お互いに非常に辛いことがわかりましたので、近く発生が予測される東海地震の際には、認知症でも、障害者でも、安全に利用できる構造を

持った建物があり、その上に、それぞれの専門家である職員がいる福祉村へ避難をしていただくこうと考えて、現在、着々と準備をしております。

ペット、マット、毛布、衣料、オムツ、食料品などを購入して備蓄していますし、避難を希望される人々の移送の必要性も調査しております。更に、福祉村の職員も被災して出



●福祉村全景

勤不能となる者が出ることも想定し、全国各地からいらっしゃるボランティアを適切に配分するセンターも作りしました。

(13) 福祉村病院（一九八二年）

福祉村病院は、福祉村をご利用の皆様健康を守り、彼らの自立度を高めるのを第一の目標としていますから、最初の第一病棟（二〇五床）は、脳卒中とリウマチのリハビリを主眼として、一九八二年に建てました。

第二病棟（二八六床）は、全国から殺到する認知症の患者さんを、東雲町の山本病院（二〇八床）だけでは、受け入れできなくなっていましたので、認知症専門の病棟として、一九八四年に作りました。

階は認知症のすべてのリハビリを実施するために必要な設備を整え、二階から六階までを病床にしました。病床の各階の色をすべて変えて、患者さんに覚えやすくし、トイレの前だけ廊下の色を変えたり、トイレの門灯は二十四時間つけっぱなしに

して、トイレの位置を患者さんに分かりやすく表示いたしました。

また、トイレから大便を持ち出して食べないようにするために、患者



●第二病棟トイレ 患者さんにすぐわかる様使用の表示をしてある

さんが排泄を終えて立ち上がったから、すぐ自動的に便を流してしまう装置もつけました。

廊下は、もちろん、回廊式ではなく、廊下の突き当たりには、患者さんが腰掛けて休めるように、長椅子を置きました。

二〇〇一年に、厚生省が突然、病院の建築基準を変更したために、山本病院の廊下の幅が2cm足りなくなつて、病院として使えなくなりま

した。入院中の患者さんは、すべて重症の認知症の方々ばかりですから、ど

この病院も受け入れていただけませんから、福祉村病院の南にあったバスターゴルフ場をつぶして、そこへさくら通り病棟（九十六床）を二〇〇二年に作り、皆さんにこちらへ移っていただきました。

山本病院は、職員寮とともに取り壊してしまいました。

(14) 認知症の音楽療法

(一九八三年)

認知症になられた現在でも、尚、音楽が楽しめる患者さんには、楽しめる音楽を利用して、少しでも病状を改善させたいと考えました。

でも、音楽が好きか嫌いか、更に、好きならどんな曲が現在でも楽しめるのかは、認知症の患者さんには、お尋ねできませんから、様々な曲を聞いていただき、その前後の脳波をとり、脳波を改善させた曲が、その患者さんの喜ばれるものであるかと推定をしました。

愛唱歌があるとおっしゃった患者

さんには、その曲を唄っていただいた前後の脳波を比べ、脳波を改善した曲があれば、それを度々唄っていただきました。

脳波測定者が五〇〇名を超えた時点で、統計をとってみました。その結果は以下の通りです。

① 音楽鑑賞

(イ) 音楽のジャンル別

脳波の改善率が最も高かったのはロックでして、改善率が最低だったのはナツメロでした。

今から約三十年位前の高齢者にとつての若い頃は、まさにテレビのおしんの時代でしたから、楽しい思い出よりも辛く悲しい思い出の方が多かった筈ですから、ナツメロで思い出される過去が、喜ばなかったためではないでしょうか。

(ロ) 病型別

アルツハイマー病では、ロック、サンバ、行進曲などのリズムミカルな曲が、脳波を改善しました。

音楽の中核は、側頭葉の中側頭回

にあります。アルツハイマー病の病変は、側頭葉から始まりますから、音楽中核は比較的初期からやられてしまいます。従って、音楽のメロディーやハーモニーなどは楽しめなくなり、原始的なリズムだけしか楽しめなくなったためではないでしょうか。

血管性認知症では、ややスローなテンポの美しいメロディーのクラシック曲が、脳波を最もよく改善しました。

これは、側頭葉皮質には、脳血管障害の発生が比較的少ないために、音楽中核の機能が残っているためと考えられます。

ややスローなテンポのメロディーは、血圧を下げる効果もありますから、その点からも、血管性認知症には有効と言えます。

② 唄う

愛唱歌を唄っていただいた脳波の中で、最も改善率の高かったのは、民謡でした。

あの当時の高齢者にとって若い頃の楽しみは、盆と正月だけでしたから、盆踊りを思い出させる民謡が楽しかったのではないのでしょうか。

③ 音楽療法の有効性

脳波を改善させる曲を使った音楽療法が有効であったかどうかを検証するために、私達が五年以上経過を観察できた認知症の患者さんの中で、すべての曲日で脳波が改善されたので音楽療法を実施できたグループA群（三十二名）と、すべての曲日で脳波が改善されなかったので音楽療法を行わなかったグループB群（四十八名）の経過を比較しました。

認知症の改善率は、A群が56・3%なのに、B群は6・3%でして、死亡率では逆に、B群が41・7%なのに、A群は18・8%でした。

しかも、音楽療法を始める前の認知症の重症度は、B群の方がA群よりも軽症でした。従って、この方法による音楽療法は、非常に有用であ

ることが確認できたとと言えます。
脳波計のないご自宅では、様々な曲を聞いていらっしゃる時の患者さんの表情で判断されればよいと思います。

音楽療法と認知症の予後		
	音楽療法実施群 (n=32)	音楽療法不能群 (n=48)
認知症改善率	56.3%	* * 6.3%
死亡率	18.8%	* 41.7%

* * : p < 0.01
* : p < 0.05

(15) 認知症の漢方療法

(一九八五年)

私が認知症をなんとか少しでも良くしたいと考えた頃は、認知症は治らない、だから、治療はしないと世

界中の医者は考えていましたから、もちろん、薬はひとつもありませんでした。

私は、漢方薬の中に、認知症を少しでも良くするものはないか探したと考えました。

その理由は、当時の高齢者は、子供の頃病気になる前と煎じ薬を飲まされた経験があるためか、西洋薬は拒否しても、漢方薬なら喜んで飲まれる人が多かったことが第一。

次に、漢方薬は、証に随って投薬すれば、副作用は殆どでない上に、漢方薬は、年をとって弱くなった免疫力を賦活して、感染症を防ぐ効果を持っているものが多かったからです。

1. アルツハイマー病の漢方療法

アルツハイマー病の発症には、多くの要因が関与しますが、それらの中で、遺伝的素因には、漢方の薬効は全く期待できませんから、それ以外の脳虚血、酸化ストレス、炎症反応、免疫反応と女性ホルモン欠乏などの

発症要因に有効な生薬を、先ず、調べました。

① 脳循環改善作用の生薬

チヨウトウコウ、ニンジン、トオキ、オウゴン、サンシシ、センキユウなど。

② 抗酸化作用の生薬

ケイヒ、シャクヤク、ボタンビ、カンゾウ、チンピ、サイコ、ゴミシなど。

③ 抗補体活性作用の生薬

ニンジン、トウキ、ケイヒ、ブクリヨウ、センキユウ、ソウジュツなど。

④ 性ホルモン賦活の生薬

ニンジン、トウキ、ボタンビ、センキユウ、トウニンなど。

脳循環改善、抗酸化、抗補体、性ホルモン賦活の生薬すべてを含む漢方方剤のアルツハイマー病への効果を試す治療を行いました。有効と認められたものは、以下の通りです。

① 当帰芍薬散

(証) 虚証、初期の初老期アルツハイマー病

(薬効) 長期記憶を改善

② 釣藤散

(証) 中間証、初期の老年期アルツハイマー病

(薬効) 短期記憶、徘徊多動、睡眠障害、幻覚を改善。

③ 人參養榮湯

(証) 虚証、老年期アルツハイマー病

(薬効) 易怒性、記憶、書字能力を改善。

2. 血管性認知症の漢方療法

血管性認知症を起こしやすくする要因は、高血圧、糖尿病、心房細動、高脂血症、タバコ、アルコール乱用などです。

これらの要因に有効な生薬は、

① 降圧作用の生薬
チヨウトウコウ、オウゴン、オウレン、オウバク、コウカ、トウキなど。

② 血糖低下作用の生薬
ニンジン、ブクリヨウ、マシニン、ジオウ、サンシユ、ソウジュツなど。

⑧ 血液凝固抑制作用の生薬

オウゴン、オウレン、ブクリヨウ、ニンジン、ガイヨウ、トウニンなど。

⑨ 血管拡張作用の生薬

チヨウトウコウ、シヤクヤク、ケイヒ、トウキ、ブシなど。

これらの生薬を含む漢方方剤の、血管性認知症への効果を試す治験を行ったが、有効と認められたものは、以下の通りです。

① 鈎藤散

(証) 中間証、初期の血管性認知症

(薬効) 自発性、睡眠障害、幻覚、妄想、衣類の着脱などを改善。

② 黄連解毒湯

(証) 実証、初期の血管性認知症 (薬効) ストレスによる血圧上昇、興奮性、易怒性などを改善。

(16) 認知症の先駆者として

世界中の医者が誰ひとり認知症の治療をしようとしなかった中で、山

本ただひとり、なんとか認知症を良くする方法はないかと、様々な試行錯誤を重ねていましたので、認知症の患者さんを抱えて苦しんでいらつしやうたご家族からは、大変に喜ばれまして、あの当時、山本病院には日本中から認知症の患者さんが殺到されました。

それだけでなく、一九八二年には、毎日新聞社からぜひにと強く要請されて、「老人ボケは治る」と言う本を出版しました。

本の名前がいささか売名的で気になりましたが、認知症の介護に悩む人々には、ぜひ読んでいただきたいと考えてこれを出しました。

一九八五年には、中央法規出版より「老人ほけのりハビリと看護」を出版しました。

これらの他にも共著として、以下のものを出しました。

●一九八二年 早川・光編

「ボケ」○番 現代出版

●一九八三年 早川・一光編

「ボケの周辺」 現代出版

●一九八六年 三宅貴夫編

「ボケ老人と家族への援助」医学書院

●一九八七年「最新の漢方治療指針」

日本医師会

●一九九〇年 大友英一・平井俊策編

「高齢者の症例と治療」医療ジャーナル社

●一九九〇年 大塚恭男編

「難病・難症の漢方治療」医学出版センター

●一九九一年 荒木五郎編

「高齢者の脳血管障害後遺症と漢方」医療ジャーナル社

●一九九一年 長谷川和夫ら編

「漢方薬と脳機能」メディカル・ジャーナル社

●一九八四年から二〇〇〇年までの十六年間、名古屋大学医学部で、「痴呆」の講義を担当しましたし、同じく、九八四年から、九九九年まで、特養「さわらび荘」で、愛知県内の職員を対象として、痴呆性老人介護

技術の指導を担当しました。

やがて、認知症にも色々な病型があり、軽快するものがあることに多くの医師が気付くようになって、認知症の定義から、進行性で不治という項目が削られるようになり、更に、世界中の製薬会社が、認知症に有効な薬の開発に血眼になって取り組むようになってきました。

(17) 高齢者の生きがい (一九九〇年)

一九七二年に、山本病院へ入院中の患者さん約百名に、「あなたの生きがい」はなんですかとお尋ねしたことがありましたが、彼らの生きがいは、第一に「ご家族」であり、次いで、「お孫さんの成長」でした。

一九九〇年から三年間にわたって、長寿社会開発センターが、東京都精神医学総合研究所長の石井毅先生を責任者として、各専門分野の研究者を集めて、「高齢者の生きがい」についての研究を行いました。

私も研究者の一人としてこれに参加し、「施設人居高齢者の生きがい」について様々な角度から調査しました。

この時点で、老人病院や老人ホームに入っているらしい高齢者の生きがいは、第一に「趣味」であり、次は、「役割」でした。他に、「信仰」や「友人」を生きがいとされる人もいらっしやいました。

わずか二十年の間に、高齢者の生きがいが、ご家族から趣味や役割に変わってしまったことには、大変驚かされました。家族をとりまく社会情勢の激しい変化が、ここにも現われていると考えられます。

「生きがい」が心身に及ぼす影響を調べましたら、生きがいを持って日々充実した生活をなさっているらしい人々は、全く生きがいもなく無為にお過しの方々比べて、免疫能が老化せず、更に、脳の構造も、脳の働きとともに、老化が進行していませんでした。

換言すれば、生きがいは、感染症、

痛と認知症を予防すると言えます。

このように重要な生きがいを失わせるものは何かを調べましたら、性格が内向性、神経質性の人々の、右半球の脳に脳梗塞のような脳血管障害が発生した場合に失われやすいことが分かりました。

三年間の調査期間中の死亡者は、生きがいありのグループ(六十四名)では、わずかに一名でして、死亡率は1・6%でしたが、生きがいなしのグループ(三十二名)では、七名が亡くなられて、死亡率は21・9%で、生きがいのある人の約十四倍でした。そして、死因の大半は、肺炎を中心とする感染症でした。

以上のことから、いくつになっても老け込まないで、健やかに長生きするためには、腹八分目とか、血圧の調整のような身体面の注意とともに、趣味と友人をもつて、毎日を楽しく過すとともに、まわりの人々の幸せに役立つ働きをすることが、非常に重要であることが証明された訳です。

(18) 長寿医学研究所

(一九九三年)

一九八〇年代後半に、厚生省が新たに提唱した中間施設としての老人保健施設は、福祉村にも必要だと考えましたので、福祉村病院の隣りに、一九九〇年に建てました。

これを機会に、ずっと前からぜひやりたいと考えていた認知症の研究を行うのに必要な剖検室と研究室を、老人保健施設(ジュゲム)の地下に作りました。

認知症の診断は非常に難しく、確実な診断は、脳の解剖所見を見なければできないとされています。

そこで、福祉村病院の医師達が、認知症の診断を止しく下せるようになるためと、更に、認知症がなぜ発生するのか、どうしたら治療ができるのかを解明するためにも、脳の解剖がどうしても必要ですから、剖検室と研究室を作ったのです。

解剖する資格をお持ちの田辺先生を、はるばる九州からお招きし、そ

して、浜松医大の近藤先生、名市大の幾野先生、船橋先生、岐阜医大の山階先生らにも加わっていただいて、認知症の研究を始めました。

更に、名市大岡田教授のご指導で、名市大より研究員が赴任され、様々な基礎研究も行われました。

一九九二年に当院の創立三十周年を迎え、なにか皆様のお役に立つことをしたいと色々考えました。

第二次大戦後、先進国だけではなく、世界中の人々が長生きできるようになり、未曾有の高齢社会が実現しようとしてますが、老年医学はこ



●長寿医学研究所には海外からも多くの研究者が訪れ、講演を行っている。

く最近始まったばかりですから、未だ解明されていない分野が、非常に広く残されております。

そこで、世界中の人々が、健康で長生きするのに役立つ研究が必須だと考えましたので、創立二十周年記念として、長寿医学研究所を作ることにいたしました。

建設にあたっては、名市大の岡田教授のご指導を受け、ラジオアイソトープ利用の実験室、癌の免疫療法のための無菌室、冷暖房完備の実験動物舎などを備え、どの大学の研究室にも引けを取らない、最新、最高の研究設備を設けました。

更に、当院では、おかげ様で、ご家族の皆様のご理解が大変に深いために、高度な研究のできる新鮮な剖検脳を、非常に多く揃えることができました。

脳をご提供いただいたご家族の皆様への敬意にお報いするためにも、医学の進歩のために、最も有効に活用する義務が我々にはあると考え、福岡大学の山田教授のご

指導もいただいて、ブレインバンク（一九九四年）を設立し、内外の多くの大学や研究所と提携して、脳の共同研究を行うことにいたしました。

それから十一年後の二〇〇五年に、ブレインバンクネットワーク設立準備のワークショップが東京で開催されましたので、これに参加し、更に、二〇〇六年に行われたベニス

での第一回国際ブレインバンク会議にも、当院の堀長寿医学研究所長と赤津長寿医学研究所副所長が参加し、国際的にも共同研究の輪を大きく広げました。

私どものブレインバンクは、民間病院のものとしては、現在世界の研究成果をあげております。

現在、さわらび会の中で、最も誇りにできるものは、長寿医学研究所とブレインバンクです。

長寿医学研究所のガンの免疫療法は、石黒先生が担当され、着々と成果をあげていらっしゃいます。

(19) 国際長寿科学シンポジウム (一九九五年)

科学技術の進歩と社会経済の発展によって、人生八十年の時代は現実のものとなり、心身とも充実した健康やかな長寿をおくることが広く求められています。

これらの要望に応え、総合的学際的に、長寿科学を推興するために、「国際長寿科学シンポジウム」が、一九九五年十一月に名古屋で開催されました。

その中の「高齢者医療と東洋医学」のセッションで、山本は「老人性痴呆と漢方」について研究発表を行いました。

(20) 福祉用具の開発 (一九九七年)

高齢者や障害者の自立度を高めるとともに、介護を担当される方の負担を軽くするための福祉用具を開発して、新しい産業を作り出すことは、私達にとって、緊急の課題であ

ると考え、技科大の佐々木学長と協力して、福祉機器開発研究会を一九九七年に発足させました。

定期的に研究会を開催するとともに、会員が試作された機器の試用を、福祉村病院と身体障害者療護施設の珠藻荘で担当して、新しい福祉用具の開発と実用化を推進してゆきました。

二〇〇〇年からは、さわらび会の職員による福祉用具開発コンクールを年二回行っています。

福祉用具の開発は、今後も積極的に推進する必要があると考えております。

(21) インド福祉村 (一九八七年)

私の親友である元名大病院分院長の柴田先生が、或る知人から、インドの医療状況が極端に悪く、病気がかかっても医療を受けられない人が大部分だと聞かされて、彼はぜひインドに無料の診療所を作りたいと考

え、相談にいらっしやいました。

私も無料診療所を作るのに賛成でしたが、それだけでなく、様々な福祉施設や不就学児童のための教育施設も含めた福祉村をインドへ作ることを提案しました。

そこで、柴田先生と山本の二人が有志に呼びかけて、インド福祉村建設委員会を立ち上げたのが、一九八七年でした。

外務省を通じて、インド政府へ申し込みましたが、「インドは医療も福祉も充実しているから、外国人にやってもらうことは何もない。」と、にべもなく断られてしまいました。

その上、インドでは外国人は土地を購入することもできないとのこととして、福祉村用地の購入すら、我々にはできないことが分かってきました。

柴田先生も私も仏教信者ですから、インドに福祉村を作るのなら、お釈迦様ゆかりの土地にしたいと願ってましたので、釈尊ゆかりの土地を提供して下さるインド人を探さなくて

はなりませんでしたから、本当に大変でした。

発願してから十年近くたった頃、やっとのことで、お釈迦様入滅の地であるクシナガラ近くの土地を提供してくれるインド人が見つかって、インド福祉村の建設を始められるようになりました。

診療を担当して下さるグプタ医師も着任されて、一九九八年十一月に、診療を始められました。

外務省の草の根援助資金や、郵政省の国際ボランティア預金の配分などもいただいで、基本的な医療機器の購入することができましたし、トヨタからは救急車を寄付していただきました。また、愛知医大の先生方や、一般市民の皆様のご協力も多かったです。

二〇〇〇年には、グプタ医師を福祉村病院へお招きし、エコーや胃カメラなどの研修をしていただきました。

開院後はグプタ医師の評判も大変よくて、外来患者は日増しに増え、

一日百名を越す日も多くなり、更に、他の病院ではよくならない患者さんが、当院を頼って来院される症例も次第に増えてきました。

疾病の治療だけでなく、各家庭を回って衛生教育や生活指導も行い、疾病の予防にも努めております。

近く、不就学児童の教育も始めたのと考えて、準備を始めております。

(22) 職員の幸せを

① 敢えて二兎を追う

めったにありえないような有難いえにしに結ばれて、このさわりび会で出逢うことのできた、ご利用者と職員の双方が、ともに幸せになれるようにしたいと、私はいつも考えています。

患者さん第一、ご利用者第二が、病院や福祉施設のモットーであることは当然ですが、私は同時に、ここで働く職員も幸せでなくてはならないと考えているのです。

職員にとってここで働くのは、人

生のほんのごく一部かも知れませんが、たまたま、ご縁があって、このさわりび会で働いて下さる彼らにとって、ここで働いてよかった、さわりび会で働いている間に人間として成長できたと感じていただけるとうにしたいと願っているのです。

② 朝の言葉（一九七四年）

同じ病院で働いていても働く部署が違うと、殆ど出逢うこともなく、言葉を交わすこともなく過ぎてしまうことが、しばしばです。折角の出



● 日本病院時代の朝の言葉放送風景

合いを大切にし、その交流を深めるために、全職員が交代で毎朝、自分の考えを全館に放送する「朝の言葉」を、九七四年から始めました。

日頃自分が考えていることを、院内放送でお話するためには、あれこれ考えを巡らせたり、場合によっては何冊か本を読んだりしなくてはなりませんから、放送することが、人間としての成長を促す効果があるのではないのでしょうか。

また、この放送を聞く職員にとつては、同じ職場にこんな考えを持った人がいるんだと視野が広がったり、私と同じ趣味を持つ人がいるんだと親しみや共感を感じたりするのではないのでしょうか。

毎朝、朝の放送に楽しく耳を傾けています。

⑧ 職員寮（一九六七年と一九八七年）

自由に使える時間をどのように使うかによって、人生の価値は決まります。通勤時間をゼロにして、自由な時間を増やすことは、人生に大き

なプラスを与えてくれるはずですが、更に、職住一致は、交通事故もゼロにできます。

山本病院の時代にも、病院のすぐ近くに職員寮を一九六七年に作って、職員から大変喜ばれたので、福祉村の中にも、一九八七年に七階建ての職員寮を作りました。

一階には、みんなで利用できる多目的ホールと管理人室、そして、全くバリアフリーの障害者専用の住いを三戸作りしました。多目的ホールは、早速落成式の翌日に、「ぼけ老人を抱える家族の会」を開催し、全国から多くの会員が集まりました。毎年のさわらび会の文化祭や、研究発表会そして、忘年会などにも、広く利用いたしました。

二階から七階までが宿舎でして、1Kが30戸、2DKが6戸、3LDKが18戸、4LDKが6戸、計60戸あります。

この宿舎の名前は、みんな仲よくと言う意味で「なかま」としました。が、建築業者に宿舎の玄関に表示す

るから「なかま」と書いてくれと言われて困ってしまいました。

筆を持つのは、年一回の書初めの時だけで

すので、何枚書いても気に入らず、ほとんど困っている所へ、次男の左近がちよこちよこと近づいてきて、私がほおり出した筆を持って、「なかま」と書きました。なんとか上手く書こうとしていた私の字よりも、無心にさらさらと書いた左近の字の方が気に入ったので、それを建築業者に渡しました。

現在、レジデンスなかまの玄関に掲げられている「なかま」は、左近が四才の時に書いたものです。

なかま

●左近4歳の時の書

⑨ ブックススタート（二〇〇三年）

ブックススタートとは、イギリスの

バーミンガム市が一九九二年に始めた制度でして、市民の識字率低下への対策として、生まれたばかりの赤ちゃんに絵本を贈るものでした。

絵本は、単に、文字や言葉を覚えさせてくれるだけでなく、子供の情感をはぐくみ、その上、本を読む習慣を身につけてくれます。



●山本理事長から一人ひとりに手渡されます

五十数カ国の子供の読書率を調べた最近の国際調査によりますと、世界の中で一番本を読まないのは、日本の子供でした。たった一回きりの

人生を、幅広く豊かに生きるためには、古今東西のすぐれた人達が書かれた本を、なるべく多く読まなくてはなりません。

そこで私は、二〇〇三年からこのブックスタート制を採用し、職員の方すべての赤ちゃんに、出産祝いとともに絵本をさしあげることにいたしました。

◎ 福祉村保育園（二〇〇四年）

子供は、親御さんに生きがいと幸せをもたらしてくれる大切な宝物であるだけでなく、社会にとっても大事な大事な宝物ですから、みんなが協力して育ててゆきたいと考え、山本病院でも福祉村病院でも、院内に保育室を設けて、職員のお子さんの保育をしてみました。二〇〇三年に福祉村の中に、特養の「第二さわらび荘」が出来、その一階には、広くて立派な「ふれあいホール」がありますので、レジデンスなままの多目的ホールの役割はなくなりました。そこで二〇〇四年に、この多目



● 保育園の子供達

的ホールをつぶして、本格的な保育園を作りました。室内はクッションフロアや天然木などの安全な材料を使ってありますから、子供達は安心して遊べます。

0歳1才児と2歳6才児の二つの部屋に分かれ、それぞれ担当の保育者が、それぞれの年齢にあった保育を行っています。

たくさんのお本がある図書室で、お気に入りの絵本を読んだり、松谷建設が寄付して下さった50インチの超大型テレビの置かれた遊戯室で、テ

レビの幼児番組を見たり、体操したりして、思いきり遊んでいます。屋外には砂場ができ、また夏にはプールで遊べるような安全な園庭も整備されました。

◎ 学童保育（二〇〇四年）

二〇〇四年から、小学校の夏、冬そして春の長いお休みの間に、福祉村公園内の瑞恵寺で、学童保育を始めました。そのために、瑞恵寺にトイレと冷暖房を新設いたしました。

出勤する親と一緒に福祉村へ通い、働く親の近くで、時には働く姿を見ながら休みを過せるのは、最高の幸せではないでしょうか。

更に、福祉村の特徴を活かして、施設ご利用の皆様方とふれあいながら、明日香のクッキー作り、あかね荘の絵画教室、珠藻荘での書道や陶芸、そして、若菜荘での餅つきなども体験できます。その上、若菜荘や野依老人クラブの皆様とも交流をし、お手下、竹とんぼ、竹馬などを作って遊ぶことも教えていただけます。



● 学童保育の子供達と対依老人クラブの皆様との交流

また、一年生から六年生までが一緒に勉強をし、本を読み、遊んでいます。最近はまだあまり経験ができなくなっている学年を超えた交わりです。ここでは、上級生が下級生の面倒をよくみてくれています。他人を思いやる心も育っているようです。長い休みの間だけではなく、土曜日も学童保育をしてほしいという職員からの要望も出てますので、現在検討中です。

医療法人さわらび会 創立45周年記念講演会

医療法人さわらび会は、今年の8月15日で創立45周年を迎えます。45周年の記念式典として、2名の講師の先生方をお迎えし、45周年記念講演会を開催いたします。

特定医療法人共和会 共和病院
老年科部長 河野 和彦 先生

演題「わが国の認知症診療と私の歩み」

国立長寿医療センター病院
包括診療部長 遠藤 英俊 先生

演題「認知症の医療とケアー過去・現在・未来」

日時

平成19年8月18日(土) 14時~17時

場所

ホテルアソシア豊橋(豊橋市花田町西宿)

さわらび大学講座案内

☆参加費無料で、どなたでも受講できます

●9月13日(休)「認知症の予防」

医療法人・社会福祉法人さわらび会 理事長 山本 孝之

●9月27日(休)「成年後見制度について」

さわらび地域包括支援センター 社会福祉士 石川 正敏

お知らせ 8月のさわらび大学は法人の都合により休講とさせていただきます。

※さわらび大学の開催は、第2・4木曜日の開催です。
時間は午後3時~4時。会場は、福祉村病院会議室です。
尚、都合により日程及び講座が変更となることもございますのでご了承ください。

●お問い合わせ・受講申し込み
軽費老人ホーム若菜荘
☎ (0532)48-1138
℡ (0532)48-2365

- さわらび会後援会 寄附ご芳名**
●H19・6・15・7・14
- 春日井市藤山台カリー、二 参萬円
 - 市内依野川 半田茂行氏 参萬円
 - 河本スミ子氏 参萬円
 - 市内牧野町九〇 志萬参千四百四拾吉円
 - 小松ウメ氏 参千円
 - 彦根市大森町五〇一六 参千円
 - 彦根市民生委員児童委員 参千円
 - 協議会連合会議員若菜社部会 参千円
 - 豊川市光陽町三三 メイツ川川二〇 参千円
 - 坂口ふさ子氏 参千円
 - 市内栗谷町字ハシズメ七一九 六萬円
 - 近藤口弘氏 六萬円
 - 新城市南畑十四 六萬円
 - 光田原 参萬円
 - 市内入舟町二二 参萬円
 - 三忠葉品 参萬円
 - 市内東雲町四七 参萬円
 - 梅村敏夫氏 参萬六千円
 - 碧南市大浜上町、一三六 参萬円
 - 碧南マツダ 田中梅夫氏 参萬円
 - 市内牛川通五丁日一、一〇一 参萬円
 - 中野興服店 参萬円
 - 市内大清水町字富士見八〇四一 参萬円
 - 球松谷建設 参萬円
 - 市内小池町三六一 参萬円
 - 共和印刷 参千円
 - 市内高塚町神田六八 参千円
 - 山京敏明氏 参千円
 - 市内中岩田二丁目、一、一、一 参千円
 - 白井良治氏 参千円
 - 市内弥生町西豊和九一九 参千円
 - 林 昭氏 参千円
 - 市内登町三〇 参千円
 - 市内中野新松商店 参千円
 - 市内瓜郷町前川五〇一 参千円
 - 鈴木弘生氏 参千円
 - 市内東新町三二四 参千円
 - 市内医工新和 参千円
 - 市内関屋町 五、一、五 参千円
 - 藤スズケン 参千円
 - 市内東田町 五、四 参千円
 - 市内飯村北二丁目、六、一、六 参千円
 - 市内飯村南二丁目、六、一、七 参千円
 - 市内東藤三丁目、一、一、七 参千円
 - 森田山利子氏 参千円
 - 市内白河町一〇〇 参千円
 - 中野ガス機 参千円
 - 市内神野塚頭町二 参千円

- インド福祉村協会 寄附ご芳名**
●H19・6・15・7・14
- 神野臨海楼 参萬円
 - 市内野依町山中、九、一、四 参萬円
 - 福祉村病院職員有志 参萬円
 - 匿名希望氏 参萬円
 - 匿名希望氏 参萬円
 - 匿名希望氏 参萬円
 - その他匿名希望多数の方よりご寄附願 参萬円
 - 計 参拾七萬四千四百拾吉円
 - 現在までにご寄附いただきました金額は 八萬参千四百九拾参円 四千八百七拾伍円
 - 静岡県浜北市小松四二九一 参千円
 - 鈴木 健氏 参千円
 - 静岡県浜北市寺島三二七七一 参千円
 - 藤田浩亮氏 参千円
 - 静岡県浜北市小池町、一九 参千円
 - 山崎玲子氏 参千円
 - 静岡県浜松市篠原町一、一六〇 参千円
 - 山崎玲子氏 参千円
 - 東京都新宿区左門町九 参千円
 - 沼津保原氏 参千円
 - 名古屋守山区小幡南二、一、一、五 参千円
 - 森 健氏 参千円
 - 愛知県豊田町合ヶ丘、一、一、一、四 参千円
 - 酒井康子氏 参千円
 - 石川泉山山市木下二、二、二 参千円
 - 田村幸治氏 参千円
 - 名古屋中東区東大宮南町、五、一、一、五 参千円
 - 河村和子氏 参千円
 - 名古屋市千種区内山二、一、一、七 参千円
 - 大貫 崇氏 参千円
 - 名古屋中東区本星南町毛屋九〇一、一、二 参千円
 - 加中下勝氏 参千円
 - 市内東岩田二、一、一、六 参千円
 - 市井信行氏 参千円
 - 北海道二海部八雲町野山生八〇 参千円
 - 菅原諭貴氏 参千円
 - 名古屋市中区松原二、一、四、一、九 参千円
 - 伊藤はる子氏 参千円
 - 愛知県松山市南梅本町五、一、一、一 参千円
 - 大澤ツヤ子氏 参千円
 - 春日井市味見白山町二、一、七、一、二 参千円
 - 大塚照美氏 参千円
 - 日進市香久山二、一、一、〇、五 参千円
 - 安藤美保氏 参千円
 - 名古屋市中区新栄一、一、七、一、二 参千円
 - 東海労働会 参千円
 - 名古屋市中東区山の手一、一、五、〇、五 参千円

- 募金方法(インド福祉村)**
- 振込先 郵便振替 口座番号 〇〇八三〇一〇二一六五〇〇八
 - インド福祉村協会 運送先 軽費老人ホーム若菜荘 番四八一一二三八まで
- お礼コーナー**
ありがとうございます
- 大谷道子氏 参千円
 - 市内富士見台四一、一、五、一、二 ウォールアンサー二〇一 参千円
 - 南 明枝氏 参千円
 - 名古屋市昭和区山花町五〇 参千円
 - 医療法人 生寿会 参千円
 - 理事長 酒井宏氏 参千円
 - 名古屋市中区藤田五、一、四、一、八 参千円
 - 横水康治氏 参千円
 - 名古屋市中東区出来町、一、一、七、一、八 参千円
 - 小林智弘氏 参千円
 - 名古屋市中区平針台一、一、四、〇、五 参千円
 - シティコーポ平針台一、一、四、〇、五 参千円
 - 市内照子氏 参千円
 - 市内野依町字山中、一、九、一、六 参千円
 - レジデンスなまこま、一、〇、一、六 参千円
 - 谷 さゆり氏 参千円
 - 市内八町通、一、一、七 参千円
 - 森 澄氏 参千円
 - 市内八町通、一、一、七 参千円
 - 森 みのり氏 参千円
 - 静岡県浜松市中央区緑豊二〇六、一、六、九 参千円
 - 竹内宏人氏 参千円
 - 東京都杉並区久我山四一、一、一、一、三 参千円
 - 樋口志子氏 参千円
 - 大阪府大阪市中央区 PRビル2階 参千円
 - 中村義博氏 参千円
- ※印は豊橋市銀行を通して
- ササキ 豊橋支店様 入札前洗浄 一箱 (さわらび荘) 両フランシス館 (あかね荘)
 - 金子幸一様 すいか寄贈 ※あかね荘 明日香会社 大相模寄付表 (明日香)
 - 奥田 隆様
- 第一さわらび荘、若菜荘



山本左近 F1復帰!!

速報



スパイカーF1チーム から電撃参戦

今期、BCNコンベティションチームからGP2シリーズに参戦していた山本左近選手のF1電撃参戦が決定した。

F1でのレースは、昨年、スーパーアグリで参戦したのに続いてのことで、今回のチームは、スパイカーF1チーム。チームの代表を務めるコリン・コレス氏は、左近選手が、F3ユーロシリーズに参戦した時のチーム代表であり、2005年、左近選手が初めてF1マシンを日本GPの金曜日フリー走行をした時のジョーダンチームの代表でもあった。いわば左近選手の実力を良く知るコレス氏が、今期いまひとつ調子の上がないチームの局面打開のために白羽の矢を立てたかたちである。

現在、第11戦ハンガリーGPから今期最終戦である第17戦ブラジルGPまでの参戦が決まっているが、私達に夢と勇気を与えてくれる熱い走りがかんばれ左近！

2007 F1レーススケジュール

開催日	開催国・開催地
08/05	ハンガリー
08/26	トルコ
09/09	イタリア
09/16	ベルギー
09/30	日本
10/07	中国
10/21	ブラジル

Schedule of Sakon



●Photo/SPYKER FORMULA ONE TEAM

わいわい日記

19・6・16(7・15)

■福社村病院・シユケム

6月18日 福社先生によるCPRC(理事長出席)シユケム研修会

19日 シユケム研修会
第二病棟・さくら通り福神家談話会
第二病棟家族会

20日 市橋市社会福祉協議会主催認知症講座
合して伊勢弘之副理事長が「認知症の基本的な知識と行動障害への対応」についてアドバイザー業務を行う
認知症大にて理事長が「認知症」について講話

25日 豊橋みなとライオンズクラブ例会に理事長出席

27日 さわらび人学「野倒予防」さわらび地域福祉支援センター・若菜荘
認知症老人福祉施設協会主催石橋研修会(名古屋市内)にて伊勢弘之副理事長が「認知症への対応の仕方」認知症の行動障害を知ろう」について講話
市役所・市医師会主催の高齢者インフルエンザワクチン接種講習会に理事出席

28日 施設委員会(理事長出席)
シユケム研修会
シユケム家族会

9日 さわらび人学「近代医学に貢献した日本の先駆者」北里柴三郎を中心に「金井芳之シユケム施設長
迫山山サードス機務連絡協議会主催研修会にて伊勢弘之副理事長が「リビエ事業者側からみた認知症事例の対応」について講話

10日 病棟研修会

11日

12日

13日

18日 ■さわらび荘
認知症リハビリ講座(柴田 朝海リサンクラブ)

19日 折瀬野舎説明会(土井 市役所)
県老農協経営制度委員会(施設長 名古屋)

20日 尾花千介講義事業本巻連絡協議会兼二河プロダクション研修会(土井 名古屋・石川 本町 豊川)

21日 前芝中学校福祉体験(20日)
老人ホーム「河部持葉」施設委員会(施設長 豊田)

21日 認知症在宅介護支援事業者連絡協議会(名古屋)主催
認知症在宅介護支援事業者連絡協議会(名古屋)主催
認知症在宅介護支援事業者連絡協議会(名古屋)主催
グループホームスタッフ研修(土井 名古屋)

21日 在宅医療福祉部担当若菜荘・高野若菜若菜会(施設長 豊原 渡辺 松下 浅見 第二さわらび荘)
認知症在宅介護支援事業者連絡協議会(名古屋)主催

市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

25日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

26日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

27日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

28日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

29日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

30日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

31日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月2日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月3日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月4日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月5日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月6日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月7日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月8日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月9日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月10日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月11日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月12日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月13日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月14日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月15日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月16日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月17日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月18日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月19日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月20日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月21日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月22日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月23日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月24日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月25日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

7月26日 市役所
ほりほの消防音楽隊
ほりほの消防音楽隊

6日 愛知県老農協右講師研修(名古屋 松下)

7日 愛知県老農協八ツコン研修(平田 松原)

10日 愛知県老農協研修(豊橋 山本施設長)

11日 鈴木政二様ご主人来社
枚口力義講師講演(来社)

6月20日 ■珠菜荘
白濁入浴自衛
まごつくり出前講座にて講師(田中 羽根井小学校)

27日 消防取組り後い訓練
消防支援センター指導者養成研修(松井 地味 20日)

28日 阪神不白由者ガイドヘルプボランティア講習会にて講師(田中)

7月3日 愛知県市民生業員協議会より施設見学
豊橋海部中学校保護者研修会(施設長 まちづくり出前講座にて講師(岩田 小学校 山中)

9日 家族会役員会
指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

11日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

21日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

23日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

26日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

28日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

7月2日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

4日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

7日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

9日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

11日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

12日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

14日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

16日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

17日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

18日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

19日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

20日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

21日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

22日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

23日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

25日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

26日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

28日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

26日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

7月2日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

3日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

4日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

6日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

7日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

14日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

17日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

22日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

27日 指定障害者福祉サービス事業者等の集
団指導(来社 名古屋)

医療法人さわらび会創立45周年
おめでとうございます。

「みんなの力でみんなの幸せを」を
実現するために

常に全力で走り続けるさわらび会を
応援します。

そしてみなさんにお知らせがあります。

またF1に乗ることになりました。

スパイカーF1チーム

レギュラードライバー 山本 左近



● Photo/SPYKER FORMULA ONE TEAM

みんなの力でみんなの幸せ

2007年8月1日発行 早蕨 第412号 (昭和82年2月21日第二種郵便物認可)
充実した医療と福祉

- 特別高齢老人ホーム さわらび荘
☎(0532)54-3501
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウスカサデ ローザ
☎(0532)37-1209
- 軽費老人ホーム 若菜荘
☎(0532)48-1138
- 身体障害者福祉施設 珠藻荘
☎(0532)47-1050
- 知的障害者更生施設 あかね荘
☎(0532)48-2825
- 福祉村病院
☎(0532)46-7511
- 知的障害者授産施設 明日香
☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しるがね
☎(0532)48-1032
- 福祉コンビニ(東宮町)
☎(0532)69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
☎(0532)38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
☎(0531)24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎(0532)46-7501



社会福祉法人 医療法人 さわらび会

編集責任者: 畠田和敏

印刷: 共和印刷

定価: 100円